

## 平成 25 年度 記者懇談会（第 1 回）の記録

- 日 時 平成 25 年 4 月 25 日（金）午後 1 時 30 分  
場 所 市長応接室  
記者数 11 人  
同席者 阿部副市長、上谷副市長、企画財政部長、環境部長、建設部長  
次 第 1 平成 25 年度 上半期工事発注計画について  
2 第 23 回クリーン・グリーン作戦 2013 について  
3 平成 24 年度 除排雪事業について  
4 その他について

### 1 平成 25 年度 上半期工事発注計画について

#### 説明内容

##### （市長）

最初に、平成 25 年度工事発注計画についてでございます。

北海道の経済動向は、平成 25 年に入り、持ち直しの動きがみられるようになっており、4 月 15 日、日本銀行より発表された直近の地域経済報告においても、前回報告から景気判断が上方修正されるなど、回復の兆しもみられるものの、岩見沢市の経済情勢は依然として厳しい状況が予想されます。また、本市におきましても、人口の減少に伴い、少子高齢社会への対応や、低炭素・循環型社会の構造変化に伴う多くの課題に直面している状況にあるものと認識しております。

そのような状況を踏まえた中で、本市は、地域経済の活力を維持するため、また地域の雇用対策といった観点から、市民生活の基盤を支える公共事業に取り組む方針でございます。

はじめに工事費について、であります。本市の今年度公共工事におきましては、国の「日本経済再生に向けた緊急経済対策」に沿った平成 24 年度補正予算と平成 25 年度当初予算を合わせた中で、投資的経費を積極的に計上しており、今年度発注を予定する工事費については、一般会計、特別会計ならびに企業会計を合わせて約 103 億 2 千 6 百万円となっております。

このうち、一般会計は約 75 億 9 千 9 百万円、特別会計は約 1 千 1 百万円、企業会計は約 10 億 4 千 7 百万円。

また、昨年度予算の繰越によって今年度、上半期に早期に発注を予定する工事は、約 16 億 6 千 9 百万円と見込んでおります。

その結果、平成 25 年度の当初発注予定額は平成 24 年度の当初発注予定額と比較しまして、39 億 7 千 4 百万円、約 62.6 パーセントの増加となっております。

発注工事の特徴ですが、環境部門、農業部門、学校教育部門などの発注工事費が前年度に比べて増額となっており、環境部門では、新ごみ処分場の建設（45 億）や緑が丘霊園の造成事業（2.4 億）、農業部門では精米施設の建築工事（11.9 億）などであり、

学校教育部門については、第一小学校（14.3 億）と志文小学校（1.4 億）の校舎と屋内体育館の改築、鉄北児童館の耐震改修工事（0.5 億）などを予定しております。

次に、上半期の工事発注率であります。今年度につきましても地域経済の活性化の観点から、できうる限り早期の発注に努めるものとし、4 月から 9 月まで上半期に発注する工事費の目標額は、設計額ベースで総額約 99 億 3 百万円、工事発注率にして 95.9 パーセントを目標にしております。

上半期の発注率 95.9 パーセントという数字は、昨年度予定した目標値 89.6 パーセントと比較すると

6.3 ポイントの増と高い水準ではございますが、冒頭申し上げましたとおり、市民生活の基盤を支える意味からも、施策の早期実施を通じて地域経済への波及効果が発揮されるよう、この数値を可能な限り達成することによって、雇用・景気対策に努めていく方針でございます。

### **質疑応答**

#### **（NHK）**

契約後の前払い、完成後の早期支払いに積極的取り組むとのことですが、具体的に積極的に、と言う事は、他の自治体よりも踏み込んで対策をすることになるのでしょうか。

#### **（市長）**

景気が全然良くなっていないこと、金融円滑化法の期限切れなどもあり、企業の資金繰り、お金のまわり方をできるだけ早くしたいということから契約後の前払い、完成後の支払いを素早く対応するということなのですが、詳細は担当の部長から説明申し上げます。

#### **（企画財政部長）**

前払いは契約金額の 40%、現在のルールでは 14 日以内にお支払いすることになっておりますが、それを 1 日でも早く前に倒してお支払するということです。

完成払いにつきましても、手続き終了後 40 日以内に支払うと言うのがルールでございますが、今の扱いではそれを 21 日間に少し早めてお支払することになっているなかでの「積極的」となったものでございます。

#### **（NHK）**

市の要領、要綱を改訂して対応するのでしょうか。

#### **（企画財政部長）**

改訂ではなく、規定は「〇〇日以内」という、以内規定ですので、できるだけ早くお支払するというところでございます。

## 2 第 23 回クリーン・グリーン作戦 2013 について

### 説明内容

#### (市長)

それでは、次に、「第 23 回利根別川クリーン・グリーン作戦 2013」の開催について、でございますが、春の恒例イベントとして、「利根別川をきれいにする市民の会」と「岩見沢市」が共催し、5 月 18 日土曜日午後 1 時 30 分から実施いたします。

開会式は、「はぎぞの緑地」で光陵中学校生徒の司会進行により、岩見沢市和太鼓連絡協議会による太鼓演奏でスタートします。

開会式終了後、A・B2 つのコースに分かれ、利根別川沿いの清掃と散策を実施します。

ゴール地点となるガーデンテラスでは、清掃終了後、岩見沢緑陵高等学校吹奏楽部による「クリーン・グリーンコンサート」を行います。

そのガーデンテラスでは、18 日と 19 日の両日、「花と苗木のマーケット」を行っており、市民の皆様には、この機会に花や苗木をお買い求めいただき、ご家庭の庭などに植えていただいて、きれいなまちづくりに役立てていただければと思っております。

さらに協賛事業といたしまして、いわみざわ公園内の室内公園「色彩館」の入館料を 18 日と 19 日の両日無料とし、また北海道グリーンランド遊園地の入園料も、新聞折り込みのチラシを持参することで 18 日のみ無料となります。

なお本事業は、開基 130 年・市制施行 70 周年の記念事業に位置付けており、岩見沢造園事業組合の協力により、岩見沢市立高等看護学院生徒（1 年生 39 人）が作成する花の樽で会場を飾ったり、環境美化標語大賞に選ばれた北村小学校 2 年生による「わたしの環境美化の取り組み」を発表していただいたりします。また、ガーデンテラスでは、岩見沢新エネ・省エネ推進協会の協力により、期間中岩見沢産のヤーコンや黒豆のお茶などを用意し、花や苗木をみながら、憩のひと時を提供したいと考えております。

なお、じん芥処理センターにおいても、5 月 18 日午前 8 時 45 分からごみ拾いを行います。市民の皆様にもご参加いただき 1 時間程度、市職員と一緒に施設内のごみ拾いをしてまいりたいと考えています。

### 質疑応答

なし

## 3 平成 24 年度 除排雪事業について

### 説明内容

#### (市長)

それでは次に、平成 24 年度除排雪事業について、でございます。

まず降雪と積雪でございますが、3 月 31 日までの累計降雪量は、870 cm（昨年は 1,079 cm）、最大積雪深は 2 月 22 日に記録した 157 cm（昨年は 2 月 12 日の 208 cm）でした。

除雪延長は昨年比 0.3 キロ増の 956.5 キロ、運搬排雪は、委託業者（7 社）と市の直轄機動班により延べ 320.4 キロ（昨年は 406.6 キロ）を実施し、この内バス路線は、昨年よりも 23.8 キロ多い 167.5 キロを運搬排雪いたしました。

要望・苦情などの件数ですが、3 月 31 日までに寄せられたものは 1,404 件、お礼その他などが 82 件で、合計 1,486 件であり、これは豪雪だった昨年の 5,311 件から大幅に減少いたしました。

自主排雪については、実施した町会の数は昨年度と同数の 31 町会でしたが、実施延長は 53 キロ少ない、延べ 133.6 キロの排雪が行われました。

平成 24 年度は、昨年度の豪雪を教訓として、除排雪の機動力向上のために除雪工区を大型化し、従来の 29 工区から 16 工区へと減らし、地域間格差の縮小を図りました。

さらに、総合的な雪対策として、弱者世帯・空き家、公共施設のパトロールの実施、「高齢者世帯等雪下ろし助成制度」の創設、除排雪作業に伴う通行止め情報や路線バスの運行情報などを SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）や市ホームページ、メールサービス、FM ラジオや街頭放送など、幅広いメディアを活用し、積極的な提供を行いました。

除排雪に要した費用については、1 月前半の降雪の状況を踏まえ、8 億 8 千万円の追加補正を行いました。その後の降雪量が予想を下回った事などから、3 億円弱を使わずにこの冬の除排雪事業を終えることができる見込みとなっております。

## **質疑応答**

### **（北海道新聞）**

バスの運休本数を取りまとめていたのではなかったでしょうか。

### **（市長）**

公共交通機関を止めない、バスを止めないという事を目標に総合的な雪対策事業をやってきましたが、結果的にバスは止まりました。それも早い段階で。

そのバスが止まった要因ですが、大きく 2 つに分けています。一つは吹雪などの悪天候による視界不良、運転をするうえで安全が確保できない、と言った理由での運休が全体で 12 日間、路線数で 116 路線、途中再開が 24 路線、延べになりますが 92 路線が運行再開出来ずに終日運休となっております。

もう一つ、道路が原因だった運休は 8 日間、路線数で申しますと 18 路線、うち運行再開が 8 路線で 3 日間、終日運休が 6 日間で 10 路線、だったと把握しております。

この冬は札幌管区气象台からきめ細かな情報収集を行い、後手にならないよう、情報をうまく活用しながら、除排雪にあたりました。

さらには、中央バスとも連携し、除雪終了後に運行路線の確認を行い、狭隘箇所を直ちに排雪するなど、拡幅の努力をしてまいりました。しかしながら断続的な降雪により、結果として 8 路線において終日運休となったものです。

来年以降、この結果を踏まえ、（運休する）路線数を少なくする、（期間を）縮めるという事を目標に取り組んでまいりたいと考えております。

**(北海道新聞)**

道路除雪と運搬排雪、道路除雪は 0.3 キロ増だが運搬排雪は減っています。これをどう読み解けばいいのでしょうか。

**(市長)**

除雪はかき分け除雪の延長が単純に伸びたことにほかならないのですが、運搬排雪はこの冬 3 回実施しました。去年はもっと雪が降っているので 4 回実施しております。路線の状況に応じて実施しておりますので、それが数字としての違いになっているものと思われま

**(北海道新聞)**

累計降雪量が減っているのに除雪が増えたということはどのようにしてなのでしょう

**(市長)**

きめ細かな除雪、生活道路の状況に応じた除雪、また、降雪量に応じた除雪を行った結果であり、(降雪量により)単純には比較できないと思っています。

**(北海道新聞)**

(今後、バス) 路線の見直しを含め、バスの運行を確保するという事なのでしょう

**(市長)**

道路の構造上、夏でも道幅が狭いところに、雪が降り積もり一層道幅が狭くなっているという路線もあり、どうしても道路幅の確保に困難が付きまといま

ただこれは市が決めて、という事ではなく、利用者の方もいらっしゃいますし、地元の方との協議もありますし、今後の課題ということになるかと思

**(読売新聞)**

除排雪事業で、当初は排雪実施路線を地図に示してHP上で公開していましたが、路上への雪出し等により途中で情報提供方法の変更を余儀なくされました。来シーズンに向け情報提供のあり方をどうするか、何か考えはあるのでしょうか

**(市長)**

今年の雪対策については、5月の連休明け以降に課題の洗い出し等、具体的な検討に入る予定でございます。この情報提供に関する項目はそのうちのひとつであることは間違いなく、情報は事前にお伝えしたいという気持ちは強いのですが、その情報を先取りし、作業前に大量に雪出しをする市民等がいることで、作業に遅れが出たり、次の作業場所に移動できなかつたり、ということが発生したのは事実でございます

そういう事態を避けるため、緊急避難的に地図情報での提供を見合わせざるを得なくなりました。大変残念な結果だと受け止めておりますが、何とかルール化できないものかと思

**(エフエムはまなす)**

市民から寄せられたのは感謝の言葉もあったと思いますが、その主なものがあれば

**(市長)**

受けている苦情で最も多いのは、間口の置き雪です。これは苦情件数の 20%弱を占めていて、数字的には 297 件。次に多かったのが、まだ除雪が入っていないというもので 155 件、10.4%。除排雪の仕方が悪い、雑だ、と言うものが 135 件、9%程度ございました。

**(エフエムはまなす)**

市民から今年の除雪はいい、電話をかけたらすぐに対応してくれた、などの良い話も聞いています。

**(市長)**

公共交通機関を止めない、止めないためにはどうすれば良いのか、という事を除雪業者含め、それぞれの立場で考えて対応した結果ではないかと思っております。

ただそうは言っても、まだまだ、解決しなければならない点は多々ありますので、今後洗い出して次年度につなげていきたい、と考えております。

**(北海道新聞)**

バス運休に関して昨年のデータはないのでしょうか。

**(市長)**

昨年の具体的なデータは持っていないのですが、1 週間程度、止まっていたことがあったのではないのでしょうか。

**(HBC)**

この冬の雪の被害額、これからのとりまとめになるかと思いますが、数字が出ていればお願いします。

**(市長)**

被害額に関しては現在集計中でございます。

**(建設部長)**

大きな被害はないと聞いておりま。昨年のような被害にはなっておりません。

**(HBC)**

集計はいつごろになるのでしょうか。

**(建設部長)**

連休明けになるかと思えます。

#### **4 その他について（記者からの質問）**

##### **質疑応答**

**(北海道新聞)**

先日、学校給食の施設から硫化水素が発生しましたが、市長はその件について、報告を受けていたのでしょうか。

**(市長)**

報告を受けていました。私からは、硫化水素は有毒物質なので、万全の体制で対処してほしい、と現場には指示をしたところでございます。

その後、硫化水素の発生は収まったと聞いておりました。硫化水素は重たい気体で、狭いところで充満すると大変危険なのですが、異臭があったと言うのが 1 軒、その原因の特定、対処もすぐにできた、と聞いております。

これが 3 月の話だったのですが、それが 4 月に入って再度、検出された。この間、教育委員会では施設の対応を続けてきた訳ですが、再度検出されたことから、施設を徹底的に見直したところ、さらに不具合が見つかった、ということでございます。

その改修について、でございますが、どうしても 5 月上旬、まだはっきりしておりませんが、できるだけ早急に対応するよう協議を進めているところです。

(改修までに) 日数もかかることから、しっかりしたお知らせをすべきだ、という事から、先日、阿部副市長から発表させていただいたところです。

このような事態を招いたこと、また発表が発生から 1 か月近く経過してからになったことに対して、私自身、大変申し訳なく思っております。

現在は下水道への放流も再開しているところですが、数値は朝・昼・晩の 3 回、測定し監視しております。

ただ下水道管の中は、元々硫化水素が発生しやすい環境であり、水が動いていなかったり、空気に触れなかったり、と言ったことがあると発生しやすい状況になるようです。

もし異臭を感じたら、きちんと検査機器を携え、数値を測定し、対応をはかるほか、施設管理にも万全を期していくことを確認しているところでございます。

#### **(読売新聞)**

市長はいつの時点で報告を受けていたのでしょうか。また報告を受けた時点で直ちに公表することについて、内部での検討はなかったのでしょうか。

#### **(市長)**

私が報告を受けたのは、その事実が発生してすぐの時点でございまして、その日のうちに万全の体制を取ってほしい、と指示を出したところです。そして、それが収まったとの報告を受けたことで、(安心して) 私自身も反省している所ですが、その時点で公表すべきだったかな、と感じております。

ただ、通報件数が 1 件だけであり、拡大の恐れがこれ以上ない、と私自身が判断してしまったのも原因の一つかなと、感じております。

#### **(NHK)**

市の生涯学習センター「いわなび」がオープンしたわけですが、この施設への期待、もしくは課題などがありましたら、お願いします。

#### **(市長)**

これまでの市の生涯学習と言えば、どちらかと言うと「場の提供」が中心でございました。

これを機会に「場の提供」から「生涯学習活動の総合的な支援」ができるようになった、ととらえております。

4/1 から 14 日までの利用状況でございますが、この間の利用者は 5,762 名となっていて、大勢の市民の方にご利用いただいております。

年間の利用見者は96,000人を見込んでおり、このままの予約や利用状況からしますと、見込を上回るのではないかと感じております。また、ぜひ上回ってほしいと願っているところでございます。何より利用していただくことが一番であり、利用者が増えれば、それに付随する効果も出て来るのかなあ、と思っております。

**(NHK)**

これまでの3館に加え、武道場なども整備されていて、いい施設になったという印象を持っていますが、それが故の弊害みたいなものもあるのではないのでしょうか。例えば、武道場の音が階下の会議室に響いているとか。

今回はPFIを活用した整備だったのですが、これまでと違った建て方だから起きているといったことはないのでしょうか。

**(市長)**

PFIを活用したから、(騒音が出ている)ということではないと思っております。構造上の問題なのか、設計上の問題なのか、また、作業上・仕様上の問題なのか、指摘は届いております。市教委には、管理者である「ときめき岩見沢」と協議の上、実施してほしい旨の指示は出しております。

市教委としては、原因を把握した上で、防音対策など、適切な方法で対処していきたい、と報告を受けています。

**(NHK)**

要求性能を満たしていないとか、性能として何か不足があったのではないのでしょうか。

**(市長)**

(性能は)要求していて、(それを)満たしております。他の部屋への音漏れが無いよう基準も示しております。ただ、充分ではなかったということから、対策を講じているところでございます。

**(NHK)**

それは事業者側の過失、ということになるのでしょうか

**(市長)**

基本的にはそうなる、と理解しております。

**(NHK)**

設計の段階で、市としてその性能が担保されるかどうかの確認は行っていないのですか。

**(市長)**

音が直接聞こえるのか、振動を通して伝わっているものなのか、いろいろな要素があるので、市の技術担当者を交えて、しっかりと調査し、必要な対策を即座に打つ、改善してもらうということを考えております。

**(NHK)**

かかる費用については、何かを削減するとか、ということになるのでしょうか。

**(市長)**

建築にあたっての部分と運営にあたっての部分は別だったはずなので、そうはならないのでは、と思っております。



**(北海道新聞)**

設計通り施工は行われていた、ということでしょうか。

**(市長)**

不適切工事とか、手抜き工事とかという事ではございません。まずは原因を調べてみないと。どういう原因で下の階に漏れ伝わっているのか、防音工事を行っているはずなので。仕様の中でも示しているはずですから。

**(北海道新聞)**

設計通りの施工がおこなわれているとすれば、施工がまずかったということなのでしょう。

**(市長)**

それもあります。事前に審査もおこなっていることですし、音なのか振動なのか、原因を調査しないと、現時点では何とも言えません。

**(建設部長)**

その件に関して、昨日、打音検査を実施しております。結果は、今日、この時点では出ておりません。設計についても、再度チェックし直す考えでおります。

**(市長)**

検査して、把握して、原因を分析して、対処することが必要だと考えていおります。

**(北海道新聞)**

設計通りの施工が行われていたかどうかについて、現時点では分からない、ということなのでしょう。

**(市長)**

いや、設計通りの施工は行われています。

**(NHK)**

遮音する物質を多く入れればよかったということではないのでしょうか。

**(市長)**

そのあたりも、原因の調査分析を待ってから、適切に対処していきたいと考えております。

**(北海道新聞)**

新たな費用が発生した場合、市が負担していくことになるのでしょうか。

**(市長)**

原因によりけりですが、市が負担するものではないと考えています。まずは、下の階で使いにくいという声が出ている以上、それを改善していく、というのが設置者としての使命だと思っております。

**(読売新聞)**

原因はいつごろまでに分かるのでしょうか。

**(市長)**

具体的なものは、連休明けぐらいになるのではないかと、思っております。今後のスケジュールなども、あとでお知らせするようにいたします。原因が分かり次第、速やかに対処していきたいと考えております。

**(北海道新聞)**

異臭（発生）の件について、発表するタイミングはいくつかあったと思うのですが、もし、4月に再発していなかったら、発表していなかったのでしょうか。

**(市長)**

報告を受けた時点で、状況と（ガスの）特性と措置について公表しなかったことには反省しています。考えが至らなかったことは本当に反省しております。

**(読売新聞)**

発表時にもお聞きしましたが、影響がありうる範囲、気体なので動きを読むことは難しいですが、せめて町内会単位での説明などは最低限必要だったのではないのでしょうか。

**(市長)**

報告を受けた時点で、経過と対処をしっかりと説明しよう、とプレスの方には会見でお話させていただいたところですが、今後はより慎重な対応ができるよう、心がけさせていただきたい。

私としては、当面（発生が）収まった、と認識しておりました。

**(北海道新聞)**

どこで再発するか、また、当初の見立てと異なる発生原因だとして考えられるのではないのでしょうか。

**(市長)**

硫化水素に関しては、一定の処置をすることで発生を抑えることができる性質のと聞いておりましたので、その発生を抑えることを優先すべき、と考えたところがございます。

（硫化水素の）気体は重たいので、下水管の中を伝っていった、地上を流れていった訳ではございません。（被害が）一部限定的であったため考えが至らなかったことが反省点でございます。

**(北海道新聞)**

昨今の事件・事故の発表を見ていると、すべての対応が終わってから発表されていますが、それではかなり遅い。処置をしながら発表するというのが一般的だと思います。

**(市長)**

その時（発生時点）には発表しなかったのですが、今回（再発した時点）はしっかりと発表しよう、と。終わってからこんなことがありました、と言うのではなくしっかりと説明させていただくため、会見を開いたところがございます。

**(北海道新聞)**

今後は処置をしながら発表するというのでいいのでしょうか。

**(市長)**

今後はそういう対応にしていきたいと思います。

**(北海道新聞)**

学校給食共同調理所建設に関して、市長は6月までに結論を出すと言っていました。

**(市長)**

現時点では、それを目途に協議を進めているところでございます。

**(北海道新聞)**

市の人口推移について、60代がグンと増えて、一方で20代・30代が減っていると発表されました。その原因と対策、とくに若い人の雇用対策について、どうお考えですか。

**(市長)**

平成23年の統計資料によれば、亡くなる人が1日3人、生まれる方が1.4人、差し引きで1.6人減少する計算です。また、社会増減でいうと、7人程度が転出して、転入者が6人程度ですので、合計すると、2.7人ずつ、毎日減少していく計算となります。転出者の階層別では若い方が多いことから、若年層の減少原因はやはり進学等であり、(これからも)減っていくことを危惧しております。

高校までは地元で通学する方が多いのですが、さらに進学となると、現在は教育大学岩見沢校しかない。理美容学校も閉校し、駒澤大学の保育看護福祉学校も保育課程の募集をやめています。来春からは看護師課程だけになってしまいます。進学先がないから、どうしても札幌に出て行かざるを得ない。また就職も、市内の企業の皆さんにはがんばっていただいているところですが、就職の希望先が札幌と言う方も多い。若い方が望む業種が限られているのも事実です。

**(毎日新聞)**

来春は駒澤高校がなくなる。あのハードとソフトは何か対策を考えているのでしょうか。

**(市長)**

まだまだこれからです。間口に関しては減少しており、市内の子どもさんが、全員市内の高校に入れられない状況にあります。

ハードとしては高台にあり、一定のまとまった面積を有している一等地であることから、利活用を考えてまいりたい。

**(HBC)**

上谷副市長の就任後、1か月近く経過しましたが、この間の感想と、市長から副市長へ期待することをお願いします。

**(上谷副市長)**

いろいろな事案が発生し、対応を含め、改めて気を引き締めていきたい、と思っております。担当が建設、経済、農政、上下水道で、積極的に業務にあたってまいりたい。この1か月、各課長などからいろいろと説明を受け、分かってきたこともあるので、積極的に取り組んでいきたい。

**(市長)**

担当分野はもちろんですが、執務においてもいろいろとアドバイスをいただきながら進めていける体制ができた、ということで、頼もしく思っております。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています(作成:岩見沢市秘書課広報係)。